

修道の伝統力

～伝える・統べる・力～

修道の“伝統力”とは

伝える力=コミュニケーション能力

統べる力=リーダーとしてのマネジメント能力

力つよさ=長い歴史のなか積み重ねてきた進学実績やクラブ実績

これまでの歴史と、ここで身につける力、それが修道の伝統力です。



Since 1725～明治時代の修道～



教育方針

知徳併進

藩学に源を発し、288年の歴史を持つ学園の教学の方針は、建学の精神である「道を修めた有為な人材の育成」をめざし、「知」を深め、「こころ」を磨くことにあります。知に偏することなく、人間として豊かな心を備えた人材の育成こそ、長く受け継がれてきた本校の教育方針です。

山田十竹先生(1833-1901)

山田十竹先生は、現在の私学「修道」の開祖と云うべき方です。明治19年、浅野家より「修道学校」の経営を引き継がれ、「人材なければ国盛んならず」の固い信念のもと、教育に生涯を捧げられました。

尊親敬師 ◎親と師は心の泉、敬愛の心をこめて

至誠勤勉 ◎日々、まごころつくし、ひたすら励み

質実剛健 ◎かざり気なく、まことありて、強く正しく

「知徳併進」の教学の大方針と上記の三カ条の実践綱領は、1954年(昭和29年)に、それまでの修道教育の根底に流れるものを確認して、改めて掲げられたものです。1725年(享保10年)広島藩の「講学所」として出発した時から、すでに「学問は自分の身を修めるもの」という教学の精神が示されており、1881年(明治14年)旧藩主浅野長勲も校長山田養吉(十竹と号す)に、「道徳を修むるを以てて本校の主義とすべきこと」「生徒の品行を正すべきこと」と教学の方針を示しています。1905年(明治38年)私立修道中学校が設立された時、校是を「知徳併進」「質実剛健」と定めました。これは1928年(昭和3年)制定の校歌の中にも謳われており、建学以来、一貫して続いているものです。



教育方針	01
伝統を受け継ぐ「紳士」たち	03
対談【在校生×校長】	05
修道の学び	07
初級	09
中級	11
上級	13
新生は今	15
進路指導	17
進学実績	19
合格体験記	21
班活動【運動班】	23
班活動【文化班】	25
年間行事	27
施設	29
制服／保護者からのメッセージ	31
校長あいさつ／沿革	32
諸納付金等／同窓会	33
生徒数等／Q&A	34